

## 2025 年度東京音楽大学一般選抜（B 日程）

# 学生募集要項

## 作曲指揮専攻（作曲「ミュージック・メディアコース」）

2025 年度に東京音楽大学一般選抜（B 日程）にて、作曲指揮専攻（作曲「ミュージック・メディアコース」）を新たに募集します。入試日程、課題等は、以下の通りです。

一般選抜（B 日程）に関する詳細については、必ず「[2025 年度東京音楽大学一般選抜（A 日程・B 日程）入学試験募集要項](#)」（以下、「[2025 年度募集要項](#)」）をご確認ください。

### 1. アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

東京音楽大学では、入学者が本学において実りある学びを円滑に行えるように、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）を定めています。これは、本学を受験する皆さんに、入学前に身に付けておいていただきたい能力や姿勢を示す基本方針です。本学の入学試験や選抜方法には、アドミッション・ポリシーが反映されています。

○大学において専門的に音楽を学ぶにあたり、楽譜を読む力、音を聴く力、表現の基礎となるテクニック、様式を捉える力、楽典の知識が、一定のレベルに達していることが重要です。

○音楽の学習には外国語も必要です。

○専攻によっては、ピアノ演奏や新曲視唱、新曲視奏の基礎的な能力も必要です。

専攻のアドミッション・ポリシーは次の通りです。

#### ●作曲「ミュージック・メディアコース」

ポピュラー音楽を始め、様々なジャンルの音楽について興味を持ち、かつ音楽に打ち込む真剣な姿勢や熱意を備えている人材を求めます。コードネームの理解と伴奏付けの能力、基本的な和声の知識を持ち、自作曲のデモ演奏または基本的なデモ音源制作ができることが必要不可欠です。

また、今後コンポーザー、アレンジャーとして、演奏やパフォーマンスといった音楽に関わる部分に興味を持つのはもちろんのこと、現在音楽を取り巻くあらゆるツールに関しても、幅広い興味を持ち、積極的に自身の活動に生かすことのできる意欲を持つ人材を求めています。

### 2. 出願資格

出願資格については、「[2025 年度募集要項](#)」7 ページをご確認ください。

### 3. 日程一覧

|        |   |
|--------|---|
| 出願期間   | 2025年3月1日(土)～3月7日(金) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">消印有効</span>   |
| 試験期間   | 2025年3月18日(火)～3月19日(水)※   |
| 合格発表   | 2025年3月21日(金)15:00～2025年3月23日(日) 17:00  |
| 入学手続期間 | 2025年3月22日(土)～3月26日(水) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">消印有効</span> |

※出願状況等により3月17日(月)にも一部試験科目を実施する可能性があります。

### 4. 出願手続および出願書類

出願手続および出願書類については、「2025年度募集要項」11～14ページをご確認ください。

### 5. 試験科目

#### ●入学試験科目

一般選抜A日程と同様の試験科目。

※ただし、外国語は調査書の評定を利用する(大学入学共通テスト等は利用しない)。

#### 1. 外国語

調査書の評定を利用する。

※英語を母語とする者または英語が公用語となっている国・地域に居住する者で、通常の課程による直近6年間の学校教育を英語で受けた者は免除する。ただし、通常の課程による直近6年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

※卒業後、5年以上の経過者または、廃校、被災その他の事情により高校から調査書が発行できない場合は、本学の英語の試験を受けること。

#### 2. 楽典(50分)

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

#### 3. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

#### 4. 聴音(30分) 旋律聴音(8小節程度)・・・各専攻共通1題および専攻別1題

和音聴音・・・高音部譜表による三和音、4小節程度



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

## 5. 専攻実技

### (1) 伴奏付け：譜面作成とそのピアノ演奏（1時間）

- ①与えられた旋律に対して「伴奏／コード付け」を行う。  
（譜面作成時、備え付けのキーボード使用可）
- ②①で「伴奏／コード付け」した結果を、面接時にピアノで演奏する。

### (2) 和声（2時間）

- ①転調を含むバス課題。
  - ②簡単な転調および非和声音を含むソプラノ課題。
- ※①バス課題から着手のこと。試験開始後1時間で①の答案を回収する。

### (3) 小論文（1時間）

当日出題される課題について、簡単な文章を書く。

### (4) 面接とプレゼンテーション

#### ①面接

作曲に対する意識、今後、作曲家となるべく努力する姿勢、意識を問う。また特別な音楽的能力を有する者は面接でアピールすることができる。（注1参照のこと）

#### ②ピアノ演奏

自由曲または自作曲のピアノ演奏。楽曲の選択は、クラシック、ポピュラー等ジャンルを問わない（ピアノ独奏のみ。伴奏用音源等は使用不可）。（注2参照のこと）

#### ③伴奏付け(専攻実技課題(1))の実演

専攻実技課題(1)伴奏付けにおいて与えられた旋律に対して行った「伴奏／コード付け」をピアノで演奏する。

#### ④自作曲の評価

自作曲のデモ音源、楽譜(スコア等)を持参し、面接時にアピールすること(注3参照のこと)

## 注1 面接について

アピールしたい受験者は、楽器演奏や音楽制作に携わった作品の映像（動画ファイル）を面接時に提出すること（ライブ、コンサート等の映像も可とする）。

複数曲の提出を可とするが、各映像の長さは5分未満とする。

また、映像内で受験者本人を確認（本人の姿やクレジット表記）できるものとする。

動画ファイルの拡張子は mov または mp4 のいずれかとし、USB メモリに保存して面接当日に持参すること。

《当日の楽器演奏を希望する場合》

ギター、ベース、ヴァイオリン、フルート等の楽器演奏を面接時に希望する場合は、楽器を持参すること。

ギターアンプ、ベースアンプは備え付けのものを使用する。演奏を希望する楽器名、楽曲名は曲目記入票に記入すること。

電子オルガン等、複数人での移動を必要とする大型楽器の持込みは不可とする。その場合は動画ファイルを提出しアピールすること。

## 注 2 ピアノ演奏について

- ①基本的なピアノ演奏能力を知ることが目的であるため、注意して楽曲を選ぶこと。曲名、作曲者名は、専攻別曲目記入票に詳しく正確に記入すること。
- ②自作曲のピアノ演奏を行う場合は、(4)④の自作曲の評価で提出する曲とは異なる作品にすること。
- ③暗譜で演奏すること。

## 注 3 自作曲について

複数曲可。ただし、各曲の長さは5分未満とする。楽曲のスタイルやジャンルは自由だが、デモ音源は試聴するための十分な状態を満たすこと。

《デモ音源、楽譜の提出について》

- ①デモ音源は、オーディオファイルで用意すること。オーディオファイルの拡張子は wav、aif、mp3 のいずれかとし、USB メモリに保存して面接当日に持参すること。また複数曲の場合は、試聴する順に番号をファイル名の先頭に入れること。  
(例：01\_song.wav)
- ②楽譜（スコア等）を4部面接時に持参すること。簡易でもよいので製本をすること。視聴後、楽曲の部分的な演奏を指示する場合がある。その場合、基本的に使用する楽器はピアノとする。